

第二十五課

その日に

聖霊と祈り

「その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです。わたしはあなたがたに代わって父に願ってあげようとは言いません。」

(ヨハネ一六・二三、二四、二六)

「聖霊によつて祈り、神の愛のうちに自分自身を保ち……。」

(ユダ二〇、二二)

ヨハネが、子供たち、若者たち、父たちに与えたことばは、クリスチャン生活には、三つの大きな経験の段階があることを示しています(「ヨハネ二・一二―一四」)。第一は、生れたばかりの子の、罪の赦しの確信と喜びの段階、第二は、知識や力における葛藤と成長の推移の段階です。若

者は力強く成長し、神のみことばは彼らのうちに働き、悪魔に対して勝利を得させてくださいます。そして、成熟の段階を迎えます。父たちは、永遠なるお方に対する深い知識と交わりに入ります。

キリストの祈りの教えにも、祈りの生活について、それと似た三段階があるように思えます。

山上の説教は、最初の段階です。そこでは、キリストの教えが、父という一つのことばにすべて包含されています。あなたの父に祈りなさい。父は見て、聞いて、知って、報いてくださいます。この父は、地上の父よりはるかにすぐれたお方ではありませんか。子供のように信じて頼りなさい。後になると、戦いと克服という過渡的な段階が来ます。「この種のもものは、祈りと断食によらなければ出て行きません。」「まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけない……ことがあるでしょうか。」そして、告別のことばの中には、更に高い段階があります。子が大人となり、今や主の友となりました。主は彼らには何も隠そうとされません。「父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。」「何でもほしいものを」と繰り返し言われ、神の国のかきをお渡しになります。今や、御名による祈りの力が証明される時が来しました。

救い主は、この最終段階とその準備段階との対比を、私たちが熟慮すべき次のみことばで明らかにしました。「あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。」「その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです。」「その日」が何を意味するのか

を私たちは知っています。それは、聖霊が注がれる日です。キリストが十字架上で成し遂げようとしておられた偉大なみわざ、またキリストの復活と昇天の中に現れようとしていた大きな力と完全な勝利は、それまでになかった方法で、神の栄光のうちに、天からくだって人のうちに住むという形で起ろうとしていました。栄化されたイエスの御霊がくだって、弟子たちのいのちになろうとしていたのです。そのすばらしい聖霊のみわざのしるしの一つは、それまでに知られていなかった祈りの力でした。すなわち、何でも望むものがかなえられるイエスの御名による祈りこそ、御霊の内住している事実の現れなのです。

聖霊の降臨が、どうして祈りの世界の新しい時代を画するものであるかを理解するには、聖霊がどのようなお方で、そのみわざがどのようなものであり、イエスが栄化されるまで与えられなかった意味は何かなどを理解しなければなりません。神は御霊のうちに存在されます。神は霊だからです。御霊にあって、御子は御父から生れました。御霊の交わりの中にある、御父と御子とは一つなのです。御子に永遠に与え続ける御父の大権と、永遠に求め、与え続ける御子の権利と祝福、このいのちと愛の交流は、御霊によって保たれています。永遠の昔からそうでした。そして、御子が、仲保者として生きて祈っておられる今日は、特にそうです。自らの体によって、神と人間とを和解させるという、イエスがこの地で始められた偉大なみわざは、天においても続けられています。イエスは、これを成し遂げるために、神の義と人間の罪との戦いを御自分の身に

負われました。十字架上で、イエスは自らの体をもって、この戦いを永遠に終らせました。そして、イエスは昇天されました。それ以来、イエスは、御自分の体のすべての肢体が、救いを宣べ伝え、イエスが獲得した勝利を現すことを望んでおられます。イエスがいつも生きて祈っておられるのはこのためです。イエスは、絶えずとりなしの祈りをささげることにより、御自身が贖った者たちの絶えざる祈りと生きた交わりを持ち続けられます。むしろ次のように言った方がよいかもしれません。彼らの祈りの中に、イエスのとりなしの祈りそのものが反映し、それまで経験したことのない力が与えられるのです、と。

イエスは、これを聖霊によって行われます。栄化されたイエスの霊である聖霊は、イエスが栄化されるまでは注がれませんでした(ヨハネ七・三九)。御父のこの賜物は、著しく新しいもので、旧約時代の聖徒たちが知っていたものとは、全く異なっていました。キリストが幕の内側に入られた時、御血が天にもたらしたみわざは、極めて現実的で新しいものです。キリストの復活の力と昇天の栄光にあずかった私たちの人性の贖いは全く現実のもので、また、キリストが私たちの人性を取ったまま三位一体の神のいのちに入られたことは、私たちの思いをはるかに越えた意義のあるものです。したがって、キリストが成し遂げられたみわざを、私たちの心にあかしするために来られた聖霊は、旧約時代の聖霊とは、もはや違っておられました。「イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかった」というのは、文字通り真実です。

聖霊は、今や、栄化されたイエスの霊としておいでになりました。永遠に神であられた御子でさえも、人間という新しい存在となり、以前とは異なる姿で天にお帰りになりました。同じように、御子が昇天して、御父からお受けになった恵みの御霊も、以前にはもたらされなかった新しいいのちを私たちにもたらしてくださったのです(使徒二・三三)。旧約時代には、御霊は神の霊として呼び求められましたが、ペンテコステでは、栄化されたイエスの霊として、完成された贖いの完全な実と力をもたらすためにおくたりになつたのです。

キリストのとりなしの祈りによって、キリストの贖いの効力と適用とが保たれています。キリストが私たちにお遣わしになる聖霊によって、絶えずささげられるキリストの祈りの大河の中に私たちも引き込まれるのです。御霊は無言で私たちのために祈ってくださいます。時には、考えも形をなさない心の奥底で、御霊は、三位一体の神のいのちの驚くべき流れの中に私たちを入れてくださいるのです。御霊によって、キリストの祈りは私たちのものとなり、私たちの祈りはキリストのものとなります。私たちは、自分の望むものを求め、与えられます。そして、経験によって私たちは、「あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです」ということを理解します。

兄弟よ。私たちの喜びが満ちあふれるために、キリストの御名によって求めなければならないことは、聖霊のバプテスマです。これは、旧約聖書の神の御霊以上のものです。これは、ペンテ

コステ以前に弟子たちが受けた回心と新生の御霊以上のものです。これは、その影響力とみわざを伴った御霊以上のものです。これは、携挙の力を帯びた栄化されたイエスの霊、私たちのうちに御子と御父を啓示する内住のイエスの霊としておいでになった御霊です（ヨハネ一四・一六―二三）。この御霊が、祈りの時だけの御霊ではなく、全生活と歩みの御霊となり、この御霊がイエスのみわざをあますところなく私たちに示し、私たちをキリストと一つにし、キリストに似たものとしてくださる時、私たちはその行いにおいてキリストと一つになり、キリストの御名によって祈ることができるのです。私たちは、そのわざにおいて主と一つになるからです。その時はまた、直接御父に近づくことができます。それについて、イエスはこう言われました。「わたしはあなたがたに代わって父に願ってあげようとは言いません。」そうなるためには、栄化されなければなりません。そうする時、「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈り」とか、「聖霊によって祈り、神の愛のうちに自分自身を保ち」とか、「その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです」などのみことばの意味を悟るようになります。

もう一度この学課を学びましょう。私たちの祈りが働くかどうかは、私たちのあり方、生活のあり方にかかっています。キリストの御名によって生きることが、キリストの御名によって祈ることの秘訣です。御霊によって生きることが、私たちを御霊によって祈るのにふさわしい者にし

ます。自分の望むものを求める権利と力とは、キリストのうちにとどまる生活によって与えられます。キリストのうちにとどまる程度が、そのまま祈りにおける力となります。祈ってくださいるのは、私たちのうちに住んでくださる御霊です。ことばや思いではなく、ことばより深い意味のある呼吸や実在によって祈ってくださいなのです。キリストの御霊のあるところには真の祈りがあります。ああ、私たちの生活がキリストに満たされ、御霊によって満たされますように。祈りに対するすばらしい無限の約束は、もはや奇妙なものとは思われません。「あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。」

ああ、神よ。聖なる恐れを抱いて、三位一体のあなたの御前に身をかがめます。祈りの奥義は三位一体の奥義であることを見えました。いつも耳を傾けてくださる御父と、いつも生きて祈ってくださいる御子と、御父と御子から出て、私たちを恵み豊かな終ることのない求めと答にあずかせてくださる聖霊をあがめます。私の神よ。無限にへりくだったお方を前にして、私は身を

かがめ、あなたをあがめて礼拝いたします。

恵み深い主イエスよ。あなたの学課を理解できるように教えてください。あなたから流れ出て、あなたに結びつけてくださる内住の御霊は、また祈りの御霊です。御霊が私のいのちとなるために、空の、全く聖別された器として身をささげるといふことがどういふことを教えてください。私の生涯と祈りを導いていただくために、生ける人格を持たれる御霊をあがめ、信頼することを教えてください。祈る時に、聖い沈黙のうちに待ち望み、ことばに表せないとりなしの祈りをしてくださる御霊に身をゆだねることを教えてください。聖霊によって初めて、絶えず祈り、また間違いなく祈ることが可能になることを教えてください。聖霊は、御子であるあなたが御父の御前で祈っておられる、絶えることのない、失敗に終ることのないとりなしの祈りにあずからせてくださいます。主よ。あなたのこの約束を私のうちに成就してください。「その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです。まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。」

注

祈りは、よく呼吸と比較されます。それは、聖霊がいかによい位置を占めておいでになるかを私たちが知るためです。そのままでは死をもたらしような空気を、私たちは呼吸によって吐き出し、新鮮な空気を吸い込みます。私たちのいのちには、この新鮮な空気が必要です。同じように私たちは、告白によって自分の罪を吐き出し、祈りによって、心にある必要や願いを吐き出します。そして、キリストにある神の約束、愛、いのちという新鮮な空気を吸い込みます。これを私たちのいのちの息である聖霊によって行うのです。

聖霊がこのようなお方であるのは、聖霊が神の息であられるからです。御父は、聖霊を私たちのうちに吹き込まれました。聖霊を私たちのいのちに結びつけるためです。息を吐いて、また息を吸い込むように、神は息を吸い込まれます。すなわち、御霊は、私たちの心の願いや必要を負って、神のみもとに帰られます。聖霊は神のいのちの息であり、私たちのうちにある新しいいのちの息なのです。神が聖霊を吹き込まれる時、私たちは祈りの答として聖霊を受けます。私たちが聖霊の息を吐く時、聖霊は私たちの願いを負って神のみもとに昇って行かれます。御父と御子は聖霊にあって一つであり、御子のとりなしの祈りは、聖霊にあって御父に届きます。聖霊は私たちにとって祈りの霊なのです。本当の祈りは、聖なる三位一体の真理の生きた経験です。御霊の息と、御子のとりなしの祈りと、御父のみこころ、この三つは私たちの中で一つとなります。